

第 20 回手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）

「聞取り通訳試験」問題

第 1 問「お箸^{はし}」

東南アジアには日本以外にも箸を使う国がありますが、割り箸は日本独自だそうです。割り箸が登場したのは、江戸時代だそうです。お蕎麦屋さんが使い始めたという話の本にありました。

今は弁当屋さんでもコンビニでも、毎日たくさんの割り箸が使われ、捨てられていますね。リサイクルができませんので全部が燃やされて二酸化炭素となり、地球温暖化を助長します。

日本では、一年間にどのくらいの割り箸を使っていると思いますか。約 2500 億膳だそうです。赤ちゃんからお年寄りまで使うとして、一人年間に約 200 膳使っている計算になります。

割り箸の多くは外国からの輸入品です。しかし、日本でも森林を育てる途中で間引きする間伐材で割り箸を作っています。使うならこういう「エコ割り箸」を使いたいですね。

プロ野球の選手が試合で折ったバットから作られた箸があって、私はそれを持ち歩いています。自分のお箸ですから安心できますし、何度も使えて地球環境の保全に貢献している気持ちになれます。

第 2 問「世界遺産」

新聞やテレビニュースなどをにぎわせている世界遺産。行ってみたいところのアンケートでも人気を集めている。カンボジアのアンコール・ワット、フランスのモン・サン・ミ歇尔などへの世界遺産観光ツアーも登場している。

世界遺産には 3 種類あり、歴史的な建造物や遺跡などの文化遺産、絶滅のおそれがある動植物の生息する地域や景観などの自然遺産、そして文化と自然の両方がある複合遺産である。2007 年 7 月現在で、文化遺産 660、自然遺産 166、複合遺産 25 の合計 851 が登録されている。

日本では北海道から沖縄まで合計 17 箇所の世界遺産が登録されており、中でも鹿児島屋久島や奈良の法隆寺は古くから登録されていることで知られている。現在も富士山などが登録申請中である。

世界遺産は私たちを自然や文化で癒してくれる過去からのすてきな贈り物だ。観光を楽しむのはよいが、ごみを捨てたり、落書きを残したりするようなマナー違反は絶対に許せない。

第20回手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）

「読取り通訳試験」問題（要約文）

第1問「帰省」

〈要約文〉

私は富山出身で、盆と正月には家に帰ります。家族と会えるのが一番の楽しみです。帰るときはブルートレインを使います。

ブルートレインとは寝台特急のことで、昔はたくさん走っていたのですが、今ではすっかり少なくなりました。年配の方はカーテンで仕切られた3段ベッドを思い浮かべるでしょうが、今は個室で鍵もカード式。ゆっくり休むことができます。

2年前の帰省のときは豪雪で、飛行機は欠航。寝台特急「北陸」で帰りました。翌朝、富山駅に着くころには驚くほどの積雪。到着が3時間ほど遅れましたが、駅で家族みんなの顔を見たときはうれしくて涙が出ました。

第2問「登山」

〈要約文〉

私の趣味は山登りです。この前5月の連休に一人で山登りに行きました。峠までバスで行き、そこから尾根伝いに登って行きました。

杉の木、ヒノキの間を歩いていくのは、晴れていたこともあり実に爽快でした。しばらくすると、丈の低いハイマツの茂みになり、やがて山頂にたどり着きました。

山頂では富士山、南アルプス、八ヶ岳など360度の展望が感動的でした。2時間かけて下りていくと、湯煙が見えました。温泉施設があるのです。

有名な「黄金の湯」という露天風呂から眺める城下町の広がりほまさに絶景。仕事のストレスや悩みも忘れ、30分も湯につかっていました。

この温泉はアルカリ性で、神経痛、筋肉痛、五十肩に効能があるそうです。とても気持ちよかったです。